

派遣留学報告書(9月分)

金沢工業大学 材料設計工学専攻

矢部 真樹

アメリカでの留学生活もはや3ヶ月経過し、9月に入り急に寒さを感じるようになりました。派遣留学報告書では、この1年間の派遣留学プログラムのなかで自分が何を学んで何を得ているのかを報告させていただきます。

IEI (Insensitive English Institute at University of Illinois)

IEIでの生活は、多くの人、多種多様な人と出会い、私にとって、人生の大きな転換期でありました。

UIUC (University of Illinois at Urbana Champaign)での派遣留学プログラムが始まる前の6月9日にアメリカに入国し、英語能力の向上とアーバナ・シャンペーンでの生活に慣れるということを目的として、IEI(Insensitive English Institute at University of Illinois)で、Listening/Speaking, Reading, Oral Communication, Structure and Written Expression, Conversation, Vocabularyを履修しました。IEIの多くの生徒は、UIUCに進学する大学院・大学生であり、彼らとの出会いにより、自分の将来の目標を明確にすることができました。ここ、IEIで驚くべきことは生徒の70%が韓国人であったことです。韓国人の友達に、その理由を尋ねたところ、UIUCは、全米で会計学や工学がNO.1であること、国を挙げてアメリカへの留学を推進していることでありました。また、興味深いことに、アメリカに留学するのであればUIUCという代名詞が韓国において存在しているようです。しかし、友人の韓国人からすれば、講義中に韓国語が飛び交うことを危惧していました。日本人にとっては、英語能力を向上させるすばらしい環境であり、今後の派遣留学生にも、ぜひお勧めします。この3ヶ月間を振り返れば、非常に有意義な3ヶ月を過ごすことができたと考えます。一番のIEIでの財産として、多種多様な、職業の方や色々な国から来られた方々と出会ったことです。彼らと職業観、人生観や自国の将来の産業の在り方について議論できたことは、一番のIEIでの思い出であり財産です。講義の最終成績は、Listening/Speaking, (A), Reading(B+), Oral Communication(A), Structure and Written Expression(A), Conversation(S), Vocabulary(A-)でした。講義の内容に関しては、さほど難しさを感じることはありませんでしたが、UIUCの授業が始まり、授業について行けるのだろうか、毎日、不安になることが多々ありました。しかし、逆に自学自習に取り組める時間ができました。

IEIで出会った先生、クラスメートとは、今もいい関係を続けており、今後、お互い社会人になっても刺激しあえる関係でありたいです。

UIUC (University of Illinois at Urbana Champaign)

現在、秋学期が始まり UIUC は、夏学期の静けさとは裏腹に学生であふれかいつています。現在、Daniel という大学院生の寮に 2002 年度の IJST で知り合った Kendall の友人であるマレーシア人の Faisal と共同生活しています。彼らには、大変お世話になり、この場をかりて感謝の意を申し上げます。

講義は、今学期 1 2 単位を履修しています。しかし実際は 1 9 時間を授業に費やしており、予習、復習、宿題と毎日十分睡眠時間が確保できない日々が続いていますが、非常に充実した時間を過ごしています。受講している科目と内容を下記に示します。

CHEM 101	General chemistry (Lecture & Discussion)
CHEM 105	General chemistry Lab
PHYCS 113	General Physics (Thermal Physics: Lecture, Discussion & Lab)
E S L 110	English pronunciation for Academic purpose
E S L 113	Introduction for Academic writing

CHEM 101 と CHEM105 は、セットになっており、101 で学んだ内容を、Discussion、Lab work を通して体系的に学ぶという授業です。授業そのものは、復習の内容なのですが、言葉の壁が授業をより一層難しくしています。KIT (Kanazawa Institute Of Technology) で履修した化学の授業と比較しますと Discussion と Lab work が一年の授業です。学習できるということではないでしょうか。Discussion では、TA が授業を受け持っており、Lecture に沿った問題を解くという補習のようなもので、生徒が積極的に授業に参加することがもとめられます。Lab Work では、徹底して化学実験の安全な進み方薬品の取り扱い方と研究の進め方を学びます。残念ながら日本では、化学の実験を高校、大学 1・2 生時代に、経験したことない自分にとっては、とても斬新な授業です。この Lab work は、ぜひ大学 1 年生次に化学の授業を取り入れてほしいものです。こういう体系的な授業が、工学設計Ⅲの課題研究の際の円滑かつ安全な研究につながるのではないのでしょうか。PHYCS の授業は Half semester といって 10 月から始まります。この授業も Discussion、Lab work などがあり、より知識を深めることができると考えられます。ESL の授業は、大学院生が講師として教えており。ESL113 では essay を Discussion し、Good English の書き方を ESL110 では正しい発音の方法を学んでいます。2 つとも基礎的な授業ですが、自分にとっては、正しい発音を学びました Writing Skill を向上させるいい機会だと考えています。

UIUC の授業がはじまり 1 ヶ月たち、授業のペース、勉強方法を徐々につかめてきましたが、native speaker と活発に意見を交換する機会を持ち悔いのない派遣留学生生活を過ごしていきたいです。